



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ
文部科学記者会
科学記者会 御中

平成29年10月24日
岡山大学

報道解禁：平成29年10月27日（金）日本時間午後2時（新聞は10月27日付夕刊より）

国民生活基礎調査の匿名データを分析 高い心理的ストレスを抱える人とがん検診受診率の関連性を明らかに

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学の藤原雅樹医員、稲垣正俊講師、山田了士教授ら、東北大学の中谷直樹准教授、国立がん研究センターの藤森麻衣子室長、内富庸介部門長らの研究グループは、国民生活基礎調査^{*1}の匿名データ^{*2}を利用した分析を実施し、高い心理的ストレスを抱えた人は大腸・胃・肺がん検診の受診率が低いことを明らかにしました。

高い心理的ストレスは、長期的にみるとさまざまな病気による死亡率の上昇につながります。また、がん死亡率の上昇にも関連することが知られており、健康格差をもたらす要因の一つとして大きな問題となっています。がん検診は疾病予防にとって重要ですが、わが国では心理的ストレスとがん検診受診の関連は不明のままです。

本調査は、重度の心理的ストレスを抱える人は、そうではない人と比べて、過去1年間の大腸・胃・肺がん検診受診率が有意に低いことを明らかにしました。本研究成果は10月27日米国東部時間午前0時（日本時間27日午後2時）、米国がん協会誌「*Cancer*」に掲載されます。

国民が疾病予防の機会を平等に享受するためには、高い心理的ストレスを抱える人に対するがん検診受診の勧奨、受診支援等を含めた対策が重要です。

<業績>

本共同研究グループは統計法第36条に基づき、厚生労働省から平成22年度国民生活基礎調査の匿名データの提供を受けて、心理的ストレス（K6^{*3}により評価）と、過去1年間の大腸・胃・肺がん検診受診、過去2年間の乳・子宮頸がん受診の関連を横断研究デザインにて調べました。

その結果、重度の心理的ストレスを抱える人（K6が13点以上）は、そうではない人（K6が12点以下）と比べて、過去1年間に大腸・胃・肺がん検診受診率が有意に低いという結果でした（多変量ロジスティック回帰分析にて、調整オッズ比^{*4}ORが、大腸がん OR＝0.743、胃がん OR＝0.823、肺がん OR＝0.691）。

また、教育歴、婚姻状況、就労状況の違いによって心理的ストレスとがん検診受診との関連に違いがあるのかも解析。教育年数が相対的に短い場合（大学卒業未満）に、重度の心理的苦痛を抱えた人は有意にがん検診受診率が低いことがわかりました。

<背景>

高い心理的ストレスに該当するうつ病や不安障害などは頻度の高い病気で、例えばうつ



PRESS RELEASE

病を生涯のうちに経験される人は6.6%にのぼります。こころの症状として辛いのはもちろん問題ですが、高い心理的ストレスは、身体への健康にも影響が生じます。心理的ストレスによる身体への直接的な影響、運動、飲酒や喫煙等の生活習慣への影響などが知られており、長期的には死亡率の上昇にもつながることが報告されています。

高い心理的ストレスを抱える人ではがん死亡のリスクが上昇するということが報告されています。がん死亡を減らすには、がん検診による早期発見・早期治療が重要です。海外では、うつや不安などの心理的ストレスを抱える人はがん検診受診率が低いことが報告されており、公衆衛生上の課題として認識されています。一方で、わが国では一般住民のがん検診受診率が低いことが問題となっていますが、心理的ストレスとがん検診受診率の関連は不明のままです。そこで、本研究では、高い心理的苦痛とがん検診受診との関連を明らかとし、また、その関連に社会経済的要因が影響するかどうかを明らかとすることを目的とした調査を実施しました。

<見込まれる成果>

今回、高い心理的ストレスを抱える人はがん検診を受診しない傾向にあることが明らかとなりました。がん検診による疾病予防の機会に格差が生じており、これらの人を対象としたがん検診受診の勧奨や受診支援等の強化が急がれます。

<論文情報等>

論文名 : Association between serious psychological distress and non-participation in cancer screening, and the modifying effect of socioeconomic status: analysis of anonymized data from a national cross-sectional survey in Japan

掲載誌 : *Cancer* ([http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/\(ISSN\)1097-0142](http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/(ISSN)1097-0142))

DOI : 10.1002/cncr.31086

著者 : Masaki Fujiwara, Masatoshi Inagaki, Naoki Nakaya, Maiko Fujimori, Yuji Higuchi, Kyoko Kakeda, Yosuke Uchitomi, Norihito Yamada

URL : <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/cncr.31086/full>

本研究は、JSPS 科研費 JP17K09112 の助成を受けて実施しました。

なお、本研究は匿名データを基に本研究グループが独自に作成・加工した統計等であり、厚生労働省が作成・公表している統計等とは異なります。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

精神神経病態学教室

藤原 雅樹

(電話番号) 086-235-7242

(FAX番号) 086-235-7246



PRESS RELEASE

	大腸がん	胃がん	肺がん
多変量調整オッズ比	0.743	0.823	0.691
(95%信頼区間)	(0.638-0.866)	(0.717-0.946)	(0.592-0.807)

	乳がん	子宮頸がん
多変量調整オッズ比	0.922	0.980
(95%信頼区間)	(0.775-1.096)	(0.862-1.113)

表1 重度の心理的ストレス無しに対する有りの人のがん検診受診オッズ比

年齢、性、教育歴、就労状況、婚姻状況、医療保険種別、喫煙状況、身体疾患での通院有無、日常生活自立度で調整

〈補足・用語説明〉

1) 国民生活基礎調査

保健、医療、福祉、年金、所得など国民生活の基礎的事項について厚生労働省が実施する調査です。昭和61年を初年とし、3年ごとに大規模な調査が実施され、中間の各年には、世帯の基本的事項及び所得の状況について小規模で簡易な調査が実施されます。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>

2) 匿名データ

匿名データとは、行政機関等が統計法に基づいて実施した統計調査によって集められた調査票情報を、特定の個人又は法人その他の団体の識別（他の情報との照合による識別を含む）ができないように加工したものです。匿名データは、学術研究や高等教育の発展に資すると認められる場合に研究機関等へ提供されます。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itaku/tokumei.html>

3) 心理的ストレス（K6）

K6は「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」、「何をするのも骨折りだと感じましたか」、「自分は価値のない人間だと感じましたか」の6項目の質問で構成され、「全くない（0点）」・「少しだけ（1点）」・「ときどき（2点）」・「たいてい（3点）」・「いつも（4点）」を選択する尺度（得点範囲：0-24点）です。先行研究での報告を基に13点以上を重度としました。

4) オッズ比

ある事象の起こりやすさを二つの群で比較して示す統計学的な尺度です。オッズ比が1より小さいことは、ある事象がもう一方の群と比べて起こりにくいことを意味します。